



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) Volume 001 March 29, 2004

<http://www.americanmeat.jp>

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

しばらく配信をお休みさせていただいた「TOKYO NEWS FLASH」ですが、装いも新たに「Trader's Be&Po」として再スタートすることになりました。今後も皆様のビジネスのサポートとなるような情報提供に努力していきたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。

ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。

<http://www.usmef-ja.org/book/index01.html>

★「Be&Po」とは、Beef (牛肉) とPork (豚肉) を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●ベネマン農務長官、BSE監視プログラムの拡大を発表

アン・M・ベネマン農務長官は、3月15日、米国におけるBSE監視に関する拡大措置の詳細を発表した。

これまで農務省のBSE監視プログラムは、BSE発見の可能性が最も高い集団に焦点を当ててきた。この中には、と畜場で中枢神経系の異常が認められた牛、歩行困難牛、農場で死亡した牛が含まれている。2004会計年度、農務省は2万543頭の検査を実施している。これは、例えば100万頭の成牛から1頭のBSE感染牛を、95%の信頼値で検出できる検体数であり、BSEの低リスク国に対する国際基準の47倍である。

今回の拡大措置では、対象数を大幅に拡大し、正常な高齢牛の無作為抽出も含まれることになる。これによって、例えば26万8,000頭の検査により、1,000万頭の成牛から1頭のBSE陽性牛を、99%の信頼値で検出できる。仮に、全国にBSE感染牛が5頭しか存在しなかったとしても、検出可能となる。

正常牛の抽出は、米国において毎年、食用高齢牛の86%を処理する40カ所のと畜場で実施されるが、これらの牛の枝肉はBSE陰性が確認されるまで、食用として出荷されない。

2004年6月1日に、本プログラムが全面的に実施されるべく、準備が整う予定。

※米国農務省ニュースリリース(No.0105.04)より抜粋

※本プログラムに関する詳細は米国農務省ウェブサイトwww.usda.govに掲載されています。

3月22日付のキャトル・バイヤーズ・ウィークリーによると、国立動物検疫所(NVSL)他、全国20カ所の国・州・大学などの研究機関により、BSEのサーベイランス・テストが行われることになった。これに合わせ、2社(バイオ・ラッド社とアイデックス社)の検査方法(エライザ法)が承認され、確認テストとして免疫組織化学法の他、ウェスタン・ブロット法の採用により、アイオワ州エイムズのNVSLにて実施される。

※2004年3月22日 Cattle Buyers Weekly



米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況 (3月8日～12日)

- 週間と畜頭数：63万頭 (前年比4.0%減)。
- 肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり)：肥育牛の価格は5週連続で上昇。主要5市場の平均価格は87.80ドルで、前週比2.84ドル高。主要5市場の平均枝肉価格は140.80ドルで、前週比5.66ドル高。中西部の直接取引は86.00～90.00ドルで、平均価格は88.47ドル。ハイプレーンズでは85.00～88.50ドルで、平均は87.67ドル。
- 牛肉の輸出入動向 (1月)：1月の牛肉輸出は、予想通り前年比ほぼ97%の減少。輸入は前年比7.5%増。
- 牛肉需要：米国での牛肉需要は引き続き強い。この強含みの需要は、メキシコが30ヵ月未満の牛について米国牛肉の輸入禁止を解除したことに加え、肥育牛の価格が80年代前半から90年代レベルに戻ったことが主因。

※2004年3月12日 Cattle Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	3月8～12日
400～500	124.50～129.50
500～600	103～123.50
600～700	92.25～108
700～800	85.75～94.75
800～1000	82.25～87.50

※2004年3月12日 Cattle-Glenn Grimes & Ron Plain

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (3月8日～12日)

- 週間と畜頭数：193万8,000頭 (前年比1.9%増、前週比1.2%減。)
- 豚肉の輸出動向 (1月)：1月の豚肉輸出は前年比14.7%増。最大の輸出先である日本による買付けは前年比で2.2%減、カナダはほぼ39%増、メキシコはほぼ78%増。
- 肉豚の現金取引価格：肉豚価格は前週比2ドル高で堅調に推移。

※2004年3月12日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

主要市場における100ポンド (約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

185ポンド物 (約84kg) の枝肉平均価格 (US\$)

	3月12日
ベオリア	42.50
セントポール	45.50
スーフォールズ	46.00
ミズーリ中央部	44.50

	3月12日
東部トウモロコシ地帯	63.59
西部トウモロコシ地帯	62.60
アイオワ・ミネソタ	62.83
全国	63.18

※2004年3月12日 Hog-Glenn Grimes & Ron Plain

業界ニュース

●メキシコ、ボンレスビーフの輸入禁止を解除

3月3日、米国・メキシコ両国は、メキシコが生後30ヵ月未満の米国牛のボンレスビーフの輸入再開に合意すると発表した。

取引再開はカナダとメキシコの合意を反映しており、二段階に分けて行われるだろうと、米国農務省は述べている。メキシコは、30ヵ月未満の牛のみを扱える施設からの牛肉の輸入を許可する。メキシコは、先進的食肉回収システムによる牛肉、機械的に除骨された牛肉、トリミングや挽肉、バラエティーミートの輸入は未だ認めていない。

※2004年3月8日 Cattle Buyers Weekly



業界ニュース

●肉豚・豚肉価格は上昇の予測

2004年上半期の肉豚・豚肉製品の価格は高めに推移し、同時に2004年のと畜・生産数は当初予測よりかなり高かった。米ドルの下落にもかかわらず、記録的な頭数のカナダ産育成豚およびと畜用豚が輸入されたため、と畜・生産数を押し上げている。一方、国内外の豚肉消費者は、高蛋白ダイエット、比較的高価格の代替動物性蛋白に関心を持っており、またアジアの強い需要が現在の米国豚肉市場を押し上げている。

※2004年3月16日 Livestock, Dairy, & Poultry Outlook; Economic Research Service, USDA

●大量需要にかかわらず、肉豚・豚肉価格は高止まり

米国の51～52パーセント赤身豚(生体ベース)の第一四半期の価格は、平均で100ポンド当たり平均42～45ドルの見込み。2004年第一四半期の肉豚価格は、予測では2003年第一四半期より20%高いが、豚肉生産は昨年より3%以上増える見込み。

パッカーがこの四半期に、より高い金額を肉豚に支払う理由の一端は、卸売業者がより高い金額を豚肉製品に支払っているからである。1月～2月については、米国農務省の豚枝肉相当価格の予測は、平均62.29ドルで、前年同期より17%高かった。恐らく国内消費者が豚肉に高額を払っても構わないと考えているのと、病気による輸入禁止や輸入牛肉・鶏肉の供給過小に直面して、海外からの需要が増えたため。2004年第一四半期の豚肉小売価格は平均でポンド当たり2.60ドル強であり、前年同期より約2%高い予測である。

※2004年3月16日 Livestock, Dairy, & Poultry Outlook; Economic Research Service, USDA

●2004年の輸出成長は高めの予測

昨年は相対的に円が強かったため、日本の豚肉輸入が拡大した。今年も同じ要因が、日本の豚肉輸入に対し再度有利に働くと考えられる。北米産牛肉と鶏肉インフルエンザ感染諸国からの鶏肉の日本市場への輸入が止められているため、豚肉輸出諸国に非常に大きな機会が生まれている。ドルが相対的に安いため、米国産豚肉製品は、カナダ、デンマーク、その他の主要な国際製品に比べて、日本のバイヤーにとって特に魅力的になるだろう。

※2004年3月16日 Livestock, Dairy, & Poultry Outlook; Economic Research Service, USDA

米国食肉輸出連合会 (USMEF) のホームページでは、アメリカンミートの最新情報、安全性に関する情報、セールスのヒントなどを発信中! ぜひご利用ください。

<http://www.americanmeat.jp>